

第40回 横浜市地域まちづくり推進委員会 議事録

日 時	平成29年10月12日（木）10時00分から14時00分まで
開催場所	西谷地区センター中・小会議室 ほか
出席者	委員：五十嵐委員、植松委員、奥村委員、小渡委員、名和田委員、杉崎委員、三輪委員、室田委員 幹事：中川企画部長（建築局）、小澤副区長（瀬谷区）、 齊藤副区長（保土ヶ谷区）、永瀬土木事務所長（保土ヶ谷区）
欠席者	幹事：高橋政策調整部長（環境創造局）、鳥海市民協働推進部長（市民局）
開催形態	公開
議 題	地域まちづくり組織・地域まちづくりプラン認定について （保土ヶ谷区） ＜組 織＞上菅田地区まちづくり協議会 ＜プラン＞上菅田地区まちづくりプラン
報 告	（1）つながりのまちづくりフォーラムについて （2）ヨコハマ市民まち普請事業について （3）地域まちづくりグループ登録数等の現状について （4）地域まちづくり事業助成金交付の状況
現地視察	（1）保土ヶ谷区上菅田町 （2）都筑区東山田
決定事項	「上菅田地区まちづくり協議会」の組織認定及び「上菅田地区まちづくりプラン」のプラン認定について、委員会の意見はそれぞれ「了承」とする。
議 事	（事務局）開会あいさつ 現時点で委員の過半数以上の出席で（8人中8名）あるため、会議が成立していることの確認。 地域まちづくり組織・地域まちづくりプラン認定について （保土ヶ谷区） ＜組 織＞上菅田地区まちづくり協議会 ＜プラン＞上菅田地区まちづくりプラン （申出者）＜議事資料の説明＞ （名和田委員長）では、質疑・意見交換を行いたいと思う。 （杉崎委員）アンケートについて、少数であるが反対意見が出されているが、具体的にどのような内容のものが出されていて、どういう対応をされたのか。 （申出者）組織やプランの内容についての具体的な反対意見というのはほとんどなかったが、余計なことをやる必要はないというような消極的なご意見はあった。むしろ、どちらかというとなまされるような意見の方が多かった。反対意見に関しては、匿名だったので個人的には対応していないが、その後のニュース等でご説明はさせていただいている。

(奥村委員) 非常に総合的な取組で、いろいろな観点から町をよくしていくというアイデアがたくさん出されていて、細かいところまで丁寧に提案が組み立てられており、大変すばらしいプランだと思っている。

いくつか教えていただきたい。「歩行者空間の安全性向上に関する質問をいくつか。一つ目は、これまでに交通事故が起こったことはあるのかどうか。二つ目は、電柱の移設について、狭い道だと電柱の陰に隠れて車をやり過ごすことで、むしろ電柱が人を守ってくれることもあるのだが、そのあたりをどうお考えになっているかということ。三つ目は隅切りについて、実現できたらいいと思うが、計画の中で既に内諾が1カ所でも取れているのであればその先のはずみになると思うのだが、現在はどのような状況なのか教えてもらいたい。

(申出者) 小さな交通事故は多々ある。死亡事故もあった。そのため、歩道をつけたいという意見が出ているのだが、実現するのがなかなか難しい。大きな事故があると、警察もそれ相応には対応してくれるのだが、改善にはならない。住民同士で注意を呼びかけたり、事故があったところに看板を付けたり、何らかの方法で対応をしていきたい。

電柱については、先生がおっしゃったように安心な部分もあり、電柱があるために車が止まって交互にやり過ごしているということもある。そういう面からいうと、電柱をただ取り除くということでは安全性にはつながらないと思っている。電柱を取り除くことは、土木事務所に相談しても簡単にいかないということだが、電柱を取り除くと同時に、そこに歩道ができることが条件だと思う。

それから隅切りについては、新しい住宅ができたところは比較的内諾をいただいている。県道等については、先生がおっしゃったように難しいと思う。地権者の方から土地を借りたり買ったりして、歩道をつくることと同じように努力が必要だと思う。

(小渡委員) 細かなところまで、しかも短期・中期と計画されていて、とてもすばらしいと思った。今、非常に盛り上がりが高まっている時期ではないかと思うので、これから中期・長期につなげていくために、若い世代の子どもたちや母親、そういった方々がどういう関わりをつなげていくのか、もしお考えがあればご紹介いただきたい。

(申出者) 緑化の問題について言えば、今後の森づくりの活動には学校も巻き込んでいきたいと思っている。子どもたちがかなり関心を持っているようなので、そういう人たちの意見もできるだけ幅広く取り入れながら計画の策定にあたりたい。

それから今後は、テーマごとのチームをつくっていききたいと考えている。それには私たち自身でできることというのは非常に限られているので、できるだけ行政、それから地権者の方とも一緒になって考えながら、今後も続けていきたいと思う。

交通について、プランの6ページ目の住民構成図の年齢層推移をご覧いただきたいのだが、現実的に10代の方の数を10年前と比較すると、余り変わっていない。ということは、実際には多世代の共生が多く、新しい住宅も増えてきているので、若い方も非常に増えてきている。そういう意味で、若い方たちにとっても魅力のあるまちづくりをしたいと思う。そのためにはどうしても公共交通の充実も重要で、坂道の多い地域なので、若い方の意見も取り入れてほしいという意見がアンケートにあったので、

若い子育て世代の方にとっても住みやすい環境をつくっていきたくて活動している。

今後、上菅田小学校と笹山小学校が統合されて新しい学校ができる予定があるが、子どもたちは非常に増えている。したがって、交通の、特に歩行空間に関してはお母さん方が非常に興味を持っているので、そういう意味でも、もちろん高齢者の方の安全もそうなのだが、若い方たちにも興味を持っていただけたらと思っている。

(室田副委員長) 本当にきめ細かな、住民の方々の思いが詰まったすばらしいプランだと思って拝見した。少し気になった点として、まず、対象地域は2つに分かれているということではよろしいか。

(申出者) 分かれてはいない。飛び地になっている。

(室田副委員長) 飛び地の地区とのつながりとか、笹山団地との関係はどうなのか。これからこのプランを実現していく上で、例えば、バス路線の開設などを実現していこうとなった場合に、団地の方も同様のニーズがあるかもしれないし、一緒に取り組んでいこうということも考えられるかもしれない。歩行空間も同じような道路を使っているとすれば、同じように危険だと思っているかもしれないし、特に地域交通では、仮にバスを走らせることを考えた場合に、この地域の中だけだと実現が難しいかもしれないが、もう少し広いエリアで考えると実現可能かもしれない。そういったことも考慮して、現在はどのような関係性にあるのか。

もう一つは、緑と農地が豊かな地域であるので、今後発展していけるとすばらしいと思うのだが、農家の方との関係などもあるのか。

(申出者) まず、飛び地になっている地区も上菅田自治会に含まれており、自治会として1つの活動をしている。ただ、地の利からいって、新井町に行って西谷に出ることもあるのだが、バスの便が悪いので、必ずしも西谷へ出るということでもない。だから、上菅田の中で動けるようにという意味で交通アクセスの問題を取り上げているので、そういうところで解決していきたくて思う。

農地の件だが、専業農家の方が7、8軒いて、その他の方たちは、調整区域の中が非常に多い。したがって、いろいろな規制もあるようなので、市民農園のような形で土地をお貸しになっているところもある。そのような、他の農家の方がそこを借りてやっているということがあるので、まだ利用価値はたくさんあると思っている。

笹山団地は、連合自治会に未加入であり、社会福祉協議会も別である。この協議会には笹山団地の方にも入っていただいているが、ふだん同じ場所にも活動が全く別で、笹山団地は笹山団地で1つの町として活動している。使っている交通機関や歩行者道路も同じなのだが、そういうような形で活動が別々なものだから、今まで一緒に活動するということはなかった。ただ、県道を使うのは同じだし、その他のスクールゾーンも共通しているので、我々が活動することによって、笹山団地にもプラスになるし、逆に笹山団地に何か起きたときに、我々も協力していきたくては考えている。

まちづくり協議会の役割と構成で、地域交通や緑化などに関する協力・連携ということで、周辺の大規模集合団地にもご協力いただくために、このような組織図にしている。今後は笹山団地なり、事によっては竹山団地等もご協力いただく必要があると思っている。また、笹山団地に対しては、まちづくりニュース等を配布させていただ

いているので、活動自体は周知できていると思っている。

地域交通の充実図をごらんいただきたいのだが、鴨居駅へはここからだとも5キロもない。しかし笹山団地から病院へ行こうとすると、バス路線がない。病院から送迎バスが出ており、上菅田地区や笹山団地には高齢者の方も多いため、ぜひ今後もご利用いただきたいということも病院からは言っている。団地にお住まいの方と私たちが生活の利便性向上として、公共交通機関なり、そういう送迎サービスを向上していけば、お互いにご協力していけるのではないかと考えている。

(名和田委員長) 竹山団地というのは緑区か。

(申出者) 緑区である。緑営業所と保土ヶ谷営業所で分かれているので、その辺の調整も必要になってくる。

(五十嵐委員) 何日か前に、新横浜方面から上菅田町、笹山団地、新井町、千丸台団地と自転車で通ったのだが、確かに説明があったとおり、新横浜方面からは結構交通量が多く、アップダウンも多くて、バスが通っている脇を自転車で通ると、結構危険な目に遭った。だから皆さんのお話しされたことはよくわかった。

「水辺・緑化・まちなみ環境美化」というテーマだが、横浜市内にはせせらぎ緑道や水辺のアメニティとして整備されているところがあって、特に都筑区が顕著だと思うが、完全に車道と歩道が分かれているので、安全面や環境面、景観面にもよいと思うが、中には全然管理されていなくて、草がぼうぼう生えているところもあるので、もしこういうところを整備されるのであれば、維持管理の仕組みまで考えられるといいと思う。

それから、笹山団地には笹山商店会という、非常に立派なマーケットがあるが、かなりもうさびれていて、シャッターがおりた店が多い。千丸台団地も以前には確かマーケットがあったかと思うが、なくなってしまい、そういった商業施設をどうやって健全化させるかというところも気になった。

それとあわせて、地域コミュニティを活性化させる拠点、よくあるコミュニティカフェと、商業施設をどうやってマッチングさせていくかという点が1つ、町ににぎわいと活性をもたらす重要なファクターかと思っているので、ぜひその辺も検討いただきたい。

(三輪委員) 意欲的で、とても精査に富んだプランを見せていただいた。3点ほど意見とアドバイスがある。まず1つ目は、テーマごとに部会で取組を進めていくと思うのだが、例えば、テーマ3の緑化とテーマ1の歩行者空間の整備は表裏一体で、テーマ1に関しては安全性向上という意味合いで線的な道路に注目していると思うが、住宅街の中の小さな路地空間をつくるのが、斜面地で厳しいという課題と、一方で、そういうところの豊かさをどのように町の中で継承していくかという課題がある。また、例えば子どもたちが多いとなると、道で遊ぶようなことも展開されていくことになるし、それを許容できるコミュニティも重要になってくると思う。特に住宅街で、見晴らしがよくて視界が広がっているような小さな路地を、自分たちのテリトリーとしての敷地の中の緑を豊かにしながら、それを一緒に提案できるような、路地空間と街角の緑を創生することも、これから非常に期待できるのではないかと考えた。

2つ目は、テーマ2の地域交通の生活利便性のところで、地域ケアプラザが飛び地

のほうにあって、このエリアの管轄になるわけだ。そのあたりは地域福祉保健計画で動いていると思うので、組織の中で地域福祉保健協議会、地区福祉協議会ももちろん入っていると思うが、そういう医療とケアといった所の調整も一緒に進めていくことが大事になっていくと思う。もし可能であれば、地域ケアプラザの送迎ルートや、介護ルート、また、幼稚園バスのルートなども大事かと思うので、ぜひ確認しながら進めていただきたい。

3つ目は、テーマ3で小学校との連携の話があったが、私は20年ぐらい前に子どもの遊びの研究調査を上菅田小学校でさせていただいて、そこで当時調査した子どもたちがもしかしたらそのまま住んでいるのだろうと思い、先ほど路地の話をさせていただいていた。幼稚園や保育園が、公園、路地をよく使っている状況が全国的にあるが、この地区も幼稚園や保育園が点在しているようなので、特に幼稚園や保育園は、小学校よりむしろ頻繁に、小さな花壇の整備などに出ていけるような体制がとれると思う。ぜひもう少し小さな世代のステークホルダーとして、幼稚園や保育園への協力要請などもご検討いただけるといいと思う。

(名和田委員長) 地域福祉保健計画の地区別計画のエリアはどこか。

(申出者) 上菅田地区である。連合のエリアでもあり、笹山団地は入っていないのだが、上菅田地区はこのエリアは入っている。

それぞれの部会で今話を参考にさせていただきたいと思う。上菅田のケアプラザが地区の一番端にあるので非常に利用が難しく、ただ現状は、ケアプラザの方が地区内へ出てきて、自治会のそれぞれのグループにご指導していただきながら、関係を持っている。福祉関係の問題が課題になってくるが、課題の中に福祉の問題を取り上げなかったのは、確かに交通アクセスなどは当然福祉の問題にも絡んでくるが、上菅田地区社会福祉協議会の中で、先ほど言った5カ年計画や他の計画で福祉の問題を取り扱っているためであり、決しておろそかにはしていない。

先ほどご提案いただいた保育園と幼稚園について、現在、保育園から給食の問題をご提案されて、一緒に取り組めないかという声もいただいている。ただ、現時点においては、幼稚園と保育園との接点が非常に薄いということは事実だ。今後ご協力させていただけるものがあれば協力していきたい。

路地裏の問題は、裏道でも結構車が通るものだから、安心して遊べるのは地域内の公園だ。若い人が多く、公園は大変にぎわっている。以前はその公園を私たちが管理し、掃除していたのだが、地域とのつながりを少しずつ強めていくために、今年からはできるだけ小さなお子さんのいるご家庭に、親子で参加してもらっている。また、自治会の行事も子どもたちが中心になってきている。夏祭りにも200人ぐらいの子どもたちが集まるし、かなり盛況している。

笹山小学校には、ささやま丘の上ミュージアムが併設している。パンフレットをお配りしたが、地域交流地点ということで、昔の民具、暮らし、農具などを展示しており、小学校の授業等にも活用されている。そういった若い世代を中心に、子育て支援連絡会とも一緒にやっていきたいと考えている。

(奥村委員) プランを拝見すると、たくさんのプログラムで整備項目が挙がっており、アンケートの回答で、どれをやっているかわからない、どういうふうに参加したらいい

いかわからないというような意見が散見される。これらの項目をどんな手順で進められていくのか。誰がこれに参加していいのか、長期的、短期的にどの事業を進めていくのか、そのスケジュールが住民の方たちに分かりやすく伝えることができると、どのタイミングで参加できるかとか、事業と事業のつながりがわかってくるのではないかと思った。

それから、緑化・まちなみ環境美化のところでは、「地域緑のまちづくり」といった、行政からの支援を受けながら民有地の緑化を進めていけるような助成事業もあるので、積極的に取り入れられるのはいかがだろうか。

(申出者) 正直なところ、今まで少しずつ活動はしているが、残念ながら住民全員への行き届きというのは確かにまだ足りない。これで晴れて認定させていただいたときには、細かいスケジュールを立てていきたい。

(植松委員) 神奈川区内でも、神奈川区役所へ行くのに、一度上星川へ出て、それから電車やバスを乗り継がなければならず、不便な面があるとおっしゃる方がいる。神奈川区と保土ヶ谷区はすごく密接で、神奈川区内でも保土ヶ谷区を経由しないと神奈川区の中央へ出られないという方がたくさんいるのだが、区境の問題というのにもう少し注目されるとよろしいと思う。ある程度周辺も考えながら組み立てをされていくと、また違った展開があるのではないか。

それと、こちらの協議会は、連合町内会、ないしは自治会町内会とはどういった関わりになっているのか。連合町内会や自治会町内会をうまく活用していくと、地域の方々も、自治会、町内会のやることなら参加してみようとか、読んでみようとか、そういった参加があると思うので、どのような関係になっているのか、お伺いしたい。

(申出者) まず、区境の問題だが、特別支援学校の反対側に旭硝子があるのだが、その上の道が区境だ。環状2号線があるので、交通量が非常に多いのだが、今回のプランに関しても、県道青砥上星川線だけでなく、環状2号線についてもご意見をいただいて、全く手をつけていないわけではないのだが、神奈川区だけでなく緑区や旭区との区境についても、時間がかかる部分はあるが、考えていきたいと思う。

連合町内会との関係について、もともと私たちは上新地区連合自治会というところに加盟していた。上菅田町と新井町の連合自治会であるが、そこで活動している中で、自治会の仕事は基本的には、ハードの面もソフトの面も含めてのまちづくりだという考えに至り、上菅田の町は上菅田でつくっていこうということになった。そのとき連合の中の上菅田の自治会の会長たちに提案させていただいて、賛同を得て協議会としてスタートしたので、基盤は連合である。連合自治会の会長が中心になり、各自治会に情報をおろしているのだから協力しようという方もいれば、その反面、自治会がやっているのなら自分たちはいいやという方もいる。だから、今後は良いところは生かしながら、全体に、各自治会の会員の方の隅々まで共有していきたい。

(名和田委員長) では、アドバイス、質問、活発なご議論をどうもありがとうございます。私はこの委員会の委員長と、地域福祉保健計画の前身会の委員長をさせていただいており、住居系のまちづくりでこの仕組みの中に入ってくると、今回のエリアがソフト系の地域福祉保健計画とも一致しているということもあり、総合的なまちづくりへの道筋が

	<p>つけられた、優れた計画ではないかと感銘深く思っていた。</p> <p>それから先ほど植松委員からご指摘があった区境については、確かにいろいろな問題を含んでいるかと思うが、そういう意味でも非常に重要な地域でまちづくり活動をされていて、緻密かつ長い期間にわたって準備をしてこられてここに至ったということに、改めて敬意を表させていただきたい。</p> <p>条例規則に定められた要件にも合致しており、これから組織として認定し、かつプランを認定することによって、この活動をさらに展開していただくことが非常に有益であると感じられた。以上で意見・質問がなければ、今回申請のあった、「上菅田地区まちづくり協議会」を、地域まちづくり組織として認定、「上菅田地区まちづくりプラン」を地域まちづくりプランとして認定することを了承したいと思うが、ご異議はないか。</p> <p>(全委員) 異議なし。</p>
<p>報 告</p>	<p>(1) つながりのまちづくりフォーラムについて</p> <p>(2) ヨコハマ市民まち普請事業について</p> <p>(3) 地域まちづくりグループ登録数等の現状について</p> <p>(4) 地域まちづくり事業助成金交付の状況</p>
<p>資 料</p>	<p>(1) 「上菅田地区まちづくり協議会」の地域まちづくり組織としての認定及び「上菅田地区まちづくりプラン」のプラン認定について (議事)</p> <p>(2) 上菅田地区まちづくりプラン (別添)</p>